

収入

	収入金額	- 所得税・住民税	- 社会保険料	= 1年間の手取り収入
夫	万円	万円	万円	万円
妻	万円	万円	万円	万円
	万円	万円	万円	万円
	万円	万円	万円	万円
			合計	万円

支出

項目	内容	毎月支出	年数回の支出	1年間の支出
基本生活費	食費	万円	万円	万円
	水道光熱費	万円	万円	万円
	通信費	万円	万円	万円
	日用雑貨費	万円	万円	万円
	趣味娯楽費	万円	万円	万円
		万円	万円	万円
		万円	万円	万円
		万円	万円	万円
			小計	万円
住宅関連費	住宅ローン	万円	万円	万円
	家賃・地代	万円	万円	万円
	管理費・積立金	万円	万円	万円
	固定資産税	万円	万円	万円
		万円	万円	万円
			小計	万円
教育関連費	学校教育費	万円	万円	万円
	塾	万円	万円	万円
	習い事	万円	万円	万円
		万円	万円	万円
			小計	万円
マイカー関連費	駐車場	万円	万円	万円
	ガソリン代	万円	万円	万円
	自動車税	万円	万円	万円
		万円	万円	万円
			小計	万円
保険関連費	夫の 保険	万円	万円	万円
	夫の 保険	万円	万円	万円
	妻の 保険	万円	万円	万円
	こども保険	万円	万円	万円
		万円	万円	万円
		万円	万円	万円
		万円	万円	万円
			小計	万円
その他の支出		万円	万円	万円
		万円	万円	万円
		万円	万円	万円
				小計
			合計	万円

設定条件：現在 歳 運用期間 年 リスク許容度

予想利回りは税引後、計算は複利

↓
P.20の表の「リスク許容度」を参考に「平均的」などを記入してください。

★ポートフォリオの配分比率（P.21の表を参考に「資産配分割合」を記入してください）。

資産	安定型資産	積極型資産			予想利回り (税引後)
資産クラス	国内債券・ 預貯金	国内株式	外国株式	外国債券	
合計 100%	%	%	%	%	
予想利回り	1.5%	8.0%	10.0%	6.5%	A %

★予想利回り（税引後）（P.22を参考にしてください）

$$= (1.5\% \times \underline{\hspace{2cm}}) + (8.0\% \times \underline{\hspace{2cm}}) + (10.0\% \times \underline{\hspace{2cm}}) + (6.5\% \times \underline{\hspace{2cm}})$$

$$= \underline{A} \% \quad \leftarrow (60\% \text{ ならば } 0.6, 50\% \text{ ならば } 0.5, \text{ などと記入。以下同じ})$$

★下記計算については、P.23の表を参考にしてください。

<計算例①> 年後の元利合計額は？

年間で 万円を年 A %で運用した場合の元利合計額は

$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ 万円} \times \underline{\hspace{2cm}} = \underline{\hspace{2cm}} \text{ 万円}$$

↑ P.23「終価係数表」よりあてはまる数値を入れる

<計算例②> 年後に 万円まで増やしたい！

年 A %（税引後）で運用できるとして今いくらあればいいか？

$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ 万円} \times \underline{\hspace{2cm}} = \underline{\hspace{2cm}} \text{ 万円}$$

↑ P.23「現価係数表」よりあてはまる数値を入れる

収入 手取収入

・夫 ()	万円	×	年	万円
・妻 ()	万円		年	万円

家族のプロフィール

・

退職時まで 年

・

・

・

・

〈現在の貯蓄額（預金・有価証券含む）〉

・夫 ()	万円
・妻 ()	万円

〈これからの貯蓄可能額〉

・退職時までの満期収入（定期預金・養老保険など）	万円
・その他の収入（家賃収入・不動産収入・贈与など）	万円
・退職金収入	万円
収入計 A	
	万円

支出

(参考) 文部科学省「子どもの学習費調査」
(平成18年度)

	公立	私立
中学	47万円	127万円
高校	52万円	105万円

	中学	高校	大学		
・教育費 子 ()	万円	万円	万円	=	万円
子 ()	万円	万円	万円		万円
・住宅ローン	万円	×	年	=	万円
・生活費	万円	×	年	=	万円
・子どもの結婚費用	万円	×	人	=	万円
・一時支出(大学入学金・車購入・家修理・海外旅行・ローン繰上げ返済等)					万円

◆わが家の資産をチェック (50歳時)

資産	負債
預貯金(有価証券) (万円)	住宅ローン (万円)
住宅(時価) (万円)	自動車ローン (万円)
車 (万円)	純資産額 (万円)
資産計 (万円)	負債・純資産合計 (万円)

支出計 B	万円
セカンドライフスタート時の わが家(夫婦)のお金(A - B)	
	万円



もらえる年金額チェック

ワークシート⑦

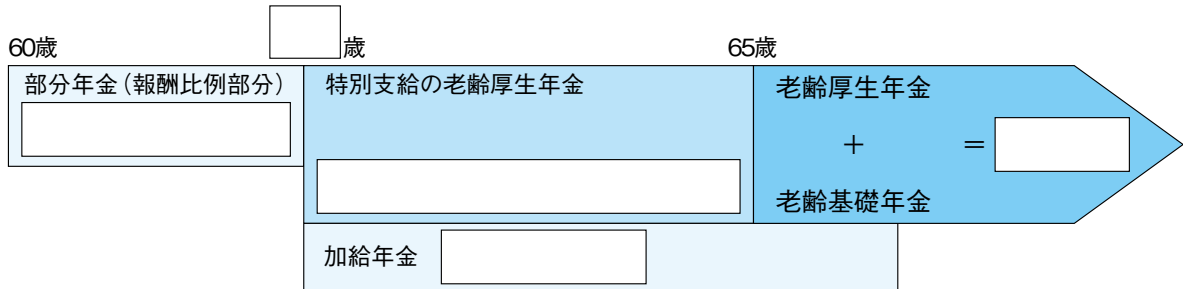
※P.32参照

・ P. 32の「1年当たりの国民年金からの年金受給額の目安」から

年加入すると 歳から老齢基金年金が 円× 年 = 円受給できる。

家の場合

夫： 年 月 日 生まれ 歳 年加入 平均給与 万円
 歳ちがいの の妻



・ P. 32の「配偶者の加給年金額(家族手当的な年金)」より

さんの年金は 歳～ 歳は、報酬比例部分だけになる。
 年加入なので、 倍する。



積立予想額

ワークシート⑧

※P.40参照

〈セカンドライフの生活費 万円〉

世帯主60歳以上の無職世帯の月平均支出額は、約31万円(総務省統計局「家計調査」/平成20年)

60歳時の夫婦の平均余命は、夫23年、妻28年、2人の年齢差を 歳とすると妻1人期間は 年となります。

60歳 23年 83歳
夫 ←—————|—————|—————→

60歳 歳 年 88歳
妻 ←-----|-----|-----→

夫婦期間約31万円

妻1人期間約21.7万円
(31万円×0.7)

+ =

試算の結果 収入計-セカンドライフの生活費 = 万円

仮に30年間のセカンドライフ準備金があると 万円欲しい場合、 年 %で運用しつつ均等に取り崩すと、60歳時に 万円必要です。 歳の人なら定年までの 年間に %で運用すると毎年 万円ずつ積み立てれば可能です。

・ P. 40「年金を受けるための元本早見表2」から

定年時に必要な貯蓄は 万円 × = 万円

・ P. 40「目標達成のための積立額早見表1」から

定年までの 年間で 万円貯めるには 万円 × = 毎年 万円の積立で可能です。

万一人の場合の年間収支表

ワークシート①

※P.57参照

(単位：万円)

		現在	万一人の場合
収 入	夫収入		
	妻収入		
	遺族基礎年金＋遺族厚生年金＋(中高齢寡婦加算)		
	奨学金		
	児童育成手当・会社福利厚生等		
	子ども保険英年金		
	投資用不動産収入		
	一時的収入(満期保険金等)		
	妻の厚生年金・老齢基礎年金・経過的加算		
	妻の個人年金		
収入合計			
支 出	税・社会保険料	所得税・住民税	
	基本生活費	社会保険料	
		夫小遣い・教育娯楽費	
		妻・子ども小遣い	
		その他(食費等)	
	住居費	住宅ローン	
		管理費・修繕費・固定資産税	
		家賃・社宅代	
		駐車場代	
	教育費	住宅取得自己資金	
		教育費	
	保険料	結婚資金援助	
		生命保険料(夫被保険者分)	
		生命保険料(夫以外被保険者分)	
		火災保険料	
	その他	車関係費(夫分)	
		夫の車ローン	
その他			
支出合計			
年間収支			

死亡保障額簡易計算

ワークシート②

※P.61参照

〈夫が万一人の場合のその後の支出〉

- ・妻の生活資金 万円 × 0.5 × 年 = 万円
 - ・子どもの生活資金 万円 × 0.2 × 年 = 万円
 - 教育資金
 - 高校までの教育費 万円 + 万円 = 万円
 - 子ども1 万円 + 万円 = 万円
 - 子ども2 万円 + 万円 = 万円
 - 子ども3 万円 + 万円 = 万円
 - 子ども4 万円 + 万円 = 万円
 - ・結婚援助資金 万円 × 人 = 万円
 - ・死亡時の一時的支出 葬式代 万円 + 万円 = 万円
 - ・死亡時の一時的支出 車ローン等 万円 = 万円
- 支出の合計① 万円

〈夫が万一人の場合のその後の収入〉

- ・遺族年金・老齢年金 万円 + 万円 = 万円
 - ・妻の収入 万円 × 年 = 万円
 - ・その他収入 万円 + 万円 = 万円
 - ・死亡退職金・弔慰金等 万円
 - ・現在の貯蓄 万円
- 収入・貯蓄等の合計② 万円
- ①－②＝万円

必要な死亡保障額